

被告のアストラゼネカ社前で「もうけより安全を優先せよ」とシュプレヒコールする原告と支援者たち＝18日、東京都文京区



イレッツサ被害者

「薬害根絶」訴え

肺がん用抗がん剤で  
間質性肺炎を起こして  
死亡した患者の遺族ら  
が国と製薬会社アスト  
ラゼネカに損害賠償を  
求めた薬害イレッツサ訴  
訟の原告と支援者たち  
は18日、全面解決を求  
めて宣伝活動に取り組  
みました。

長妻昭厚生労働相と  
東京・大阪両地裁あて  
の早期救済を求める約  
10万人分の要請署名を

## 国・企業は責任果たして

提出しました。

原告団代表の近澤昭雄さんは「6年間にわたって国と製薬企業の責任を追究してきました。国も企業も『安全だ』と言い続けてきました。私は、死亡患者が累々と増え続けていくことをくい止めたい一心で走ってきました。薬害根絶にむけて進んでいく」と、夏に予定される裁判の結審

に向けて決意を述べました。

支援に駆けつけた公害・地域環境問題懇談会代表幹事の小池信太郎さんは「国と企業には国民の健康と命を守る社会的責任があります。『あやまれ、償え、二度と起こすな』。勝利を確信して連帯してたたかいます」と訴えました。

厚労相あての要請書署名の提出には日本共産党の小池晃参院議員が参加し、原告と支援者を激励しました。